

第1A (小) 分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 体力向上を中核に学校づくりをめざした教育課程編成と実施にむけた教頭の役割

司会者	中津市立今津小学校	折本篤紀
提言者	中津市立沖代小学校	伊藤 滋
助言者	中津教育事務所次長兼指導課長	安田 憲司
記録者	中津市立下郷小学校	本多 貴久

1 協議の柱

- ・体力向上に向けた教頭としての役割及び関わりはどうか。

2 協議の実際 (内容)

- ・体力向上のためには、校内の部会（プロジェクトチーム）が必要である。教頭は、その組織づくりに関わり、取組の進行管理を担う。体力向上プランの進捗状況を把握し、進行管理をしなければならない。その際、必要に応じて指導を行う。体力向上プランで様々なことに取り組んでいるが、教頭として組織的に見ていくことが必要である。
- ・組織の活性化を図るのが教頭の役割である。体力向上の取組で結果が出ていない場合、教職員のベクトルがそろっていないことが原因である。教職員のベクトルをそろえることを教頭が担う。
- ・若手教員に体育の指導技術のノウハウ等を伝えたり、育てたりすることが教頭の役割である。

3 指導助言

体力向上に向けた教頭としての役割及び関わりは、以下の3点である。

(1) 明確なミッションの提示及び進行管理の実施

ミドルリーダー（体育主任）に明確なミッションを与えることが必要である。与えたミッションがどの位のスパンで達成できるか、それを意識したPDCAサイクルを策定し、進行管理を実施する。

(2) 目標達成後の課題の明確化

目標を達成した後、次の課題を明確にする。それをミドルリーダー（体育主任）に新たなミッションとして与える。その際、ミドルリーダー（体育主任）が目標達成のためにしたいことを明確にしてあげる必要がある。

(3) 芯の通った学校組織づくりのための課題の共有化

教頭が変わっても体力向上の継続的取組ができるように、課題を共有化して、取組を見直していく。そのことが、芯の通った学校組織づくりにつながる。まず、教頭は、全教員が組織として課題解決に取り組むように、課題を認識させ、共有化を図る必要がある。